

中学校第2学年 美術科学習指導案

日時 令和元年10月8日(火) 2校時
指導者 教育センター所員 古川 秀明

1 題材名 願いをエンブレムに

～2020年東京オリンピック・パラリンピックの公募で選外になったエンブレムのよさを味わおう～

2 題材について

(1) 題材観

本題材の重点指導事項は、現行学習指導要領の内容「B 鑑賞」(1)「ア 造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り見方を深め、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして、美意識を高め幅広く味わうこと」である(新学習指導要領の内容「B 鑑賞」(1)ア(イ)及びイ(ア)に相当)。また、新学習指導要領の〔共通事項〕(1)「ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること」及び「イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること」の両項目に関連する。

エンブレムには象徴的文様の意味があり、元々は国家や部族などの概念を表すために用いられてきたと言われている。国内で見れば、血統や家柄などを表す家紋が主な例である。象徴的文様として広義で捉えれば、国内における企業などのロゴマークも含むと考えられる。

オリンピックにおいては、1924年のパリ大会から公式エンブレムが初めて登場し、それぞれの時代やそれぞれの都市を象徴するエンブレムが採用されてきた。1964年に開催された前回の東京オリンピックでは、組織委員会にデザイン室が開設され、そこに当時の日本の若いクリエイターが集結した。入場券やメダル、ユニフォームなどに至るまでほとんどのデザインを任されており、ピクトグラムが誕生したのもこの大会である。特筆すべきは、亀倉雄策が中心となって制作された複数のポスターである。日の丸や金字のロゴがシンプルに並べられたエンブレムがそのまま使用されたものや、初めてアスリートの写真が使用されたものなど、どれもが劇的な構成で強烈なインパクトを残した。1964年東京オリンピックで採用されたエンブレムは、色は赤と金のみ、構成された形は円とオリンピックマークと「TOKYO1964」のロゴだけという非常にシンプルなものであった。必要最小限の情報で、日本で行われるオリンピックが見事にシンボライズされており、半世紀以上たった今でも高く評価され影響を与え続けている。そこには、洗練された日本人の美意識が結集されており、普遍的な美しさと時代によって変容する価値が融合されているように捉えられる。

2020年東京オリンピック・パラリンピックのエンブレムの応募総数は14,599点で、最終選考に残った4点から「組市松紋」が選出された。当落結果の公式発表後、採用された作品はもちろん、秀逸な落選エンブレムも各方面で紹介され、「落選エンブレム展」なる名称まで出てきて盛り上がりを見せた。現在も数多くの作品が確認でき、どれも応募要項に示されたキーワードが感じられるデザインで、その表現は多岐にわたる。

これらのことを踏まえつつ、本題材では2020年東京オリンピック・パラリンピックの公募で選外になったエンブレムに焦点を当てる。今回の公募で審査時に配慮された項目は、「共感性」、「象徴性」、「独創性」、「審美性」、「展開性」、「再現性」と明記されている。「共感性」は他者と考えを認め合う姿勢にもつながっており、「独創性」は造形教育の大きな目的の一つでもある。また、「象徴性」、「展開性」、「再現性」は、特にデザインの領域においては目的や条件を基に思考する際に切り離せない要素であり、「審美性」は美しさを感じさせる要素そのものである。つまり、これらの審査項目は、造形教育の目的や新学習指導要領における美術科の目標や内容に通じる部分が多いと捉えられる。

本題材では、エンブレムの造形的な特徴を多面的に分析できるようにする。実際の選考過程を想定した模擬選考的な活動を学習過程としてたどらせることで、曖昧な印象での善し悪しに終始せず、生徒自

身が分析的な見方から見いだした視点（評価の観点）を根拠とする価値付けができると考える。また、最終的には、デザインの本質的な意味への関心、あるいはこれまで継承されてきた日本文化、日本人の精神や美意識を大切にしようとする意欲の高まりなどにつながっていくことを期待し、本題材を設定した。

(2) 生徒観

生徒は、小学校図画工作科で主に相互鑑賞を経験しており、中学校美術科では、ルネサンス期の美術作品の他、池田学、吉岡徳仁といった国内外で活躍する佐賀県出身の画家やデザイナーの作品が取り上げられた鑑賞を経験している。「『鑑賞』の授業は好きですか」の質問に対しては、32人の生徒の約64%が「とても好き」または「どちらかといえば好き」と回答し、「『鑑賞』の授業は自分にとって大事だと思いますか」の質問に対しても、約64%の生徒が「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した。「『鑑賞』を行うときには、作品のどのようなところに注目していますか」の造形的な視点に関する質問に対しては、造形要素に該当する回答が多かった。鑑賞の活動を肯定的に捉えている生徒が約6割いるが、一方で「大事だとは思わない」や「なぜしているのか分からない」といった記述も見られた。これまでの鑑賞の経験から学んだ対象の見方や、鑑賞に対する意欲などには個人差があるため、造形的な視点が豊かになったと生徒自身が実感できるような題材や手立てについては、計画的な設定が重要だと考えられる。

(3) 指導観

（※本項以降、「2020年東京オリンピック・パラリンピックで採用されたエンブレム」を「採用エンブレム」、「2020年東京オリンピック・パラリンピックで選外になったエンブレム」の一部を総称して「選外エンブレム」と、それぞれ表記する。）

導入では、オリンピックと美術が無縁と捉えられがちな印象を払拭し活動への意欲を高めるために、オリンピックで芸術競技が行われていた当時の画像を紹介する。また、1924年のオリンピックで初めて採用された公式エンブレムや、1964年の東京オリンピックで採用されたエンブレム、生徒が生まれた年に近い大会のエンブレムの一部を紹介する。その後、生徒が生活の中にあるエンブレムについて想起できるようにするために、生徒にとって身近なエンブレムやロゴマークに関連する画像や動画を提示する。

展開では、「組市松紋」の鑑賞において、どのような特徴からどのような印象を受けるか、何が評価されたと思うかなどについて生徒が記述できるようにするために、採用エンブレムの主な構成要素である「市松模様」を説明する。その後、まず選外エンブレム一覧を提示し、感覚的に自分がよいと思った順で作品の全てに順位を付けるようにし、よいと考えた理由をできる限り多く書き出させる。また、選考委員になったと仮定し、必要な審査項目を挙げさせる。次に、個人で選考した作品とその選考理由をグループで伝え合わせ、必要な審査項目を協議できるようにする。これらの結果を踏まえてグループで作品を選考させる。全体での発表を想定し、作品を選考した具体的な理由を項目ごとに挙げさせる。その後、応募要項に示されていたキーワードや審査時に配慮された項目について公式記録映像などを基に選考の概要を把握させる。また、初めに見たときの視点や作品それぞれから感じたよさとグループでの意見交換や全体での発表、実際の審査項目などを知った後での感じ方の違いを意識できるように、改めて選外エンブレムを鑑賞し、順位を付けさせる。

終末では、鑑賞によって見方や感じ方が変化していくことや、経験によって養われることを意識できるように、活動を振り返らせる。

3 題材の目標

○採用エンブレムや選外エンブレムの形や色彩などの造形的な特徴や印象、創造的な構成の工夫やその効果などに関心を持ち、主体的に感じ取ろうとする。

（美術への関心・意欲・態度）

○採用エンブレムや選外エンブレムの形や色彩などの造形的な特徴や印象、創造的な構成の工夫やその効果、作品に表れている作者の意図などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わう。

（鑑賞の能力）

4 題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度〔関〕	鑑賞の能力〔鑑〕
採用エンブレムや選外エンブレムの形や色彩などの造形的な特徴や印象, 創造的な構成の工夫やその効果などに関心をもち, 主体的に感じ取ろうとしている。	採用エンブレムや選外エンブレムの形や色彩などの造形的な特徴や印象, 創造的な構成の工夫やその効果, 作品に表れている作者の意図などを感じ取り, 自分の価値意識をもって味わっている。

5 題材の指導計画と評価計画

時	◆ねらい ○学習内容	○評価規準 〔評価の観点〕 【評価の方法】
1	◆採用エンブレムや選外エンブレムの特徴や印象, 構成の工夫などを主体的に感じ取る。 ○オリンピックエンブレムの変遷について知り, 採用エンブレムや選外エンブレムを鑑賞する。	○採用エンブレムや選外エンブレムの形や色彩などの造形的な特徴や印象, 創造的な構成の工夫やその効果などに関心をもち, 主体的に感じ取ろうとしている。 〔関〕【観察】
2 本 時	◆選外エンブレムの形の造形的な特徴や印象, 創造的な構成の工夫やその効果, 作品に表れている作者の意図などを感じ取り, 自分の価値意識をもって味わう。 ○グループで1番よいと思うエンブレムを決定し, 各グループの全体での発表や実際の審査項目を確認した後には再評価する。	○採用エンブレムや選外エンブレムの形や色彩などの造形的な特徴や印象, 創造的な構成の工夫やその効果, 作品に表れている作者の意図などを感じ取り, 自分の価値意識をもって味わっている。 〔鑑〕【観察】【ワークシート】

6 1時目(前時)の目標

○採用エンブレムや選外エンブレムの形や色彩などの造形的な特徴や印象, 創造的な構成の工夫やその効果などに関心をもち, 主体的に感じ取ろうとする。〔関〕

7 1時目(前時)の展開

	学習活動	指導・支援	評価【方法】
導 入	1 オリンピックエンブレムの変遷を知る。	・オリンピックにおける芸術競技の画像を紹介する。 ・題材への関心を高めることができるように, 1924年のオリンピックで初めて採用された公式エンブレムや, これまで開催されたオリンピックで採用されたエンブレムの一部を紹介する。また, 教科書及び美術資料で, 亀倉雄策に関連する内容を簡単に紹介する。	
	生徒に提示する学習目標: オリンピック・パラリンピックエンブレムの選考に必要な項目を考えよう。		
展 開	2 身の回りの様々なエンブレムを想起する。	・生徒にとって身近なエンブレムやロゴマーク(家紋, スポーツチーム, ファッションブランドなど)に関連する画像や動画を提示し, 生活の中にあるエンブレムについて想起させる。	
	3 採用エンブレムを鑑賞する。	・選外エンブレムの鑑賞につなげるために, 野老朝雄作「組市松紋」を鑑賞し, どのような特徴が見られ, どのような印象を受けるか, また, 何が評価されたと思うかなどについて記述させる。 ・採用エンブレムの主な構成要素である「市松模様」について想起させるために身近な例を挙げる。 ・教科書及び美術資料で, 日本の文様に関連する内容を簡単に紹介する。	・エンブレムの造形的な特徴や印象, 創造的な構成の工夫やその効果などに関心をもち, 主体的に感じ取ろうとしている。〔関〕 【観察】

	<p>4 選外エンブレムの順位を決める。1番よいと思うエンブレムの理由を書き出す。</p> <p>5 選考委員になったと仮定し、審査項目を挙げる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・選外エンブレムは実際に応募されたもので、最終選考までの段階で選外になったものであることを伝える。 ・本題材の活動の軸となる選外エンブレムの鑑賞への意欲を高めるために、まず選外エンブレム一覧を見て、感覚的に自分がよいと思った順（好きな順）で全ての作品に順位を付けさせる。 ・1番よいと思った根拠を探すために、よいと思った理由をできるだけ多く書き出すよう促す。 ・評価の観点を意識させるために、自分がオリンピックエンブレムの選考委員になったと仮定させ、「2020年東京オリンピック・パラリンピックエンブレム」にふさわしい作品を選考するために必要だと考える審査項目を挙げさせる。その際、選外エンブレムを総括的に鑑賞しながら判断するように促す。 	
<p>終末</p>	<p>6 次時の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動を基に、次時ではグループでの協議や自分が選考した作品について発表することを簡潔に説明する。 	

8 1時目（前時）の評価規準と判定基準

題材の評価規準	○評価の進め方と【評価方法】 判断するポイントと指導の手立て
<p>○採用エンブレムや選外エンブレムの形や色彩などの造形的な特徴や印象、創造的な構成の工夫やその効果などに関心を持ち、主体的に感じ取ろうとしている。 [関]</p>	<p>○採用エンブレムや選外エンブレムを鑑賞し、気付いたことや考えたことを記述する様子、発言する様子を観察し記録する。 【観察】【ワークシート】</p> <p>判断するポイント（生徒の姿・状況例）</p> <p>□提示された資料や採用エンブレムの鑑賞で気付いたことを記入している。</p> <p>□選外エンブレム一覧の作品の全てに順位を付け、必要な審査項目を吟味して挙げている。</p> <p>A 上記の判断するポイントの2つを満たしている。</p> <p>B 上記の判断するポイントのいずれか1つを満たしている。</p> <p>C 上記の判断するポイントをいずれも満たしていない。</p> <p>指導の手立て（C）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポイントを例示する。 ・順位付けは感覚的でよいことを伝える。 ・他者の発言を聞いて、その内容を加筆するよう促す。

9 2時目（本時）の目標

○選外エンブレムの形や色彩などの造形的な特徴や印象、創造的な構成の工夫やその効果、作品に表れている作者の意図などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わう。 [鑑]

10 2時目（本時）の展開

	学習活動	指導・支援	評価【方法】
<p>導入</p>	<p>1 前時の活動を振り返り、本時の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の活動を簡単に振り返らせる。 ・本時の活動に見通しをもつことができるように、学習の流れを簡潔に伝える。 	
<p>展開</p>	<p>2 前時に個人で選んだ作品とその理由をグループで伝え合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他者の感じ方を知ることで視点が広げられるように、前時に選んだ作品とその理由を伝え合わせる。 ・グループで出された意見を記録するよう促す。 	

展 開	3 グループで選考のために必要な審査項目を協議する。	<ul style="list-style-type: none"> 作品を鑑賞する視点を広げさせるために、「2020年東京オリンピック・パラリンピックエンブレム」にふさわしい作品を選考するために必要だと考える審査項目をグループで協議させる。 選外エンブレムを総括的に鑑賞しながら判断し、5つの項目を具体的に挙げさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> エンブレムの造形的な特徴や印象、創造的な構成の工夫やその効果などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。【鑑】 【観察】 【ワークシート】
	4 3での協議内容を踏まえてグループで1番よいと思うエンブレムを決定する。	<ul style="list-style-type: none"> 3でまとめた審査項目を踏まえて、グループで1番よいと思うエンブレムを選考させる。 全体での発表を想定し、選考した作品の優れている点について、自分たちが協議した項目に沿って具体的な理由を挙げさせる。 	
	5 各グループの結果を掲示し、全体で共有する。	<ul style="list-style-type: none"> 全体での掲示や発表で気付いたことは、個人で記録しておくように促す。 各グループでの結果を掲示する場面では、他のグループから出された項目と比較し、分類を意識させる。幾つかのグループに発言させ、生徒の発言を基に全体で意見交流を行わせる。 各グループで選考されたエンブレムは、拡大して提示すると同時に、資料で確認させる。 	
	6 公式サイトの審査動画を見る。	<ul style="list-style-type: none"> 実際の募集から選考までの概要を把握できるように選考の記録（動画）を紹介する。 	
	7 実際の審査の流れを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自身が見いだした視点を更に豊かにし、客観的なものにするために、実際の審査項目を提示する。 	
	8 選外エンブレムに改めて順位を付ける。	<ul style="list-style-type: none"> 初めに見たときの視点や感じたよさと、グループや全体での発表、実際の審査項目などを知った後での見方の違いに気付かせるために、改めて個人で順位を付けさせる。 	
	9 題材を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞によって見方や感じ方は変化し、経験によって養われることを意識できるようにするために、題材を振り返らせる。 	
	終末		

11 2時目（本時）の評価規準と判定基準

題材の評価規準	○評価の進め方と【評価方法】 判断するポイントと指導の手立て
○選外エンブレムの形や色彩などの造形的な特徴や印象、創造的な構成の工夫やその効果、作品に表れている作者の意図などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。【鑑】	<p>○ワークシートの記述内容を基にグループで発表の様子と他者の発言を聞き記録する様子を観察する。全体での共有の場面における記録や振り返りの記述を確認する。【観察】【ワークシート】</p> <p>判断するポイント（生徒の姿・状況例）</p> <p><input type="checkbox"/>ワークシートの記述内容を基にグループで発表し、他者の発言や提示資料から気付いたことを具体的に記録している。</p> <p><input type="checkbox"/>選外エンブレムを鑑賞し、選考するために必要だと考える審査項目を、具体的に5つ挙げている。</p> <p><input type="checkbox"/>グループで吟味した審査項目や全体の発表を例に挙げながら、作品を鑑賞する視点について具体的に振り返り、記述している。</p> <p>A 上記の判断するポイントの2つ以上を満たしている。</p> <p>B 上記の判断するポイントのいずれか1つを満たしている。</p> <p>C 上記の判断するポイントをいずれも満たしていない。</p> <p>指導の手立て（C）</p> <ul style="list-style-type: none"> 他者の発言や提示資料から気付いたことを記録するよう促す。 ワークシートの記述で該当する部分を例示しながら、グループの協議を促す。